

## ヒトプロトロンビンフラグメント 1.2

Cat. No. CZY-021

Lot. No. (See product label)

### はじめに

**説明**

プロトロンビンは、肝臓で合成されるビタミンK依存性の血漿タンパク質です。血漿への分泌の前に、プロトロンビンはビタミンK依存性カルボキシラーゼによる翻訳後修飾を受け、10の特定のグルタミン酸残基がγ-カルボキシグルタミン酸 (gla) に置換されます。10のgla残基は成熟タンパク質の最初の40アミノ酸の中に位置し、プロトロンビンが負に帯電したリン脂質膜に結合する能力に寄与しています。プロトロンビンには「クリンクル」構造と呼ばれる内部相同性の2つの領域があります。これらの顕著な二次構造の領域は、成熟血漿タンパク質の残基40から270の間に位置し、いくつかの他の血漿セリンプロテアーゼに見られる成長因子ドメインを置き換えています。これまでのところ、これらの領域に機能は割り当てられていませんが、プロトロンビンに関与するいくつかの二元タンパク質相互作用の1つで役割を果たす可能性がありますと疑われています。成熟した単鎖タンパク質は血漿中でジモゲンとして循環し、凝固中に強力なセリンプロテアーゼα-トロンピンにプロテオリティックに活性化されます。このプロテオリシスはプロトロンビナーゼ酵素複合体によって触媒されます。活性化中、プロトロンビンはArg271-Thr272 (ヒト) / Arg273-Thr274 (牛) およびArg320-Ser321 (ヒト) / Arg323-Ser324 (牛) で切断され、「プロ」フラグメント (フラグメント1.2) とトロンピンに置換されます。後者は、二硫化結合によって共有結合された2つの鎖から構成されています。ヒトプロトロンビン/トロンピンの場合、Arg284-Thr285での追加のトロンピンフィードバック切断があり、成熟したトロンピンの「A」鎖から追加の13アミノ酸が除去されます。ヒトプロトロンビンは、Bajajおよび同僚によって説明されたように、新鮮凍結ヒト血漿から調製されます。牛プロトロンビンは、Owenおよび同僚によって説明された手順の修正を使用して、新鮮な牛血漿から調製されます。精製されたプロトロンビンは50% (体積/体積) グリセロール/H<sub>2</sub>Oで供給され、-20°Cで保存する必要があります。純度はSDS-PAGE分析によって決定され、活性はプロトロンビンからトロンピンへの置換後に、凝固および/またはクロモジェニック基質アッセイによって測定されます。

### 製品情報

|       |   |
|-------|---|
| 由来    | 人間                                      |
| 製剤化   | 50% グリセロール/水 (v/v)                      |
| 分子量   | 34566                                   |
| 純度    | >95% SDS-PAGEによる                        |
| 等電点   | 4.7-4.9                                 |
| 構造    | 単鎖、NH <sub>2</sub> 末端Glaドメイン、2つのクリンクル領域 |
| 局在    | プラズマ                                    |
| 消光係数  | 13.8                                    |
| 糖質含有率 | 0.082                                   |
| 翻訳後修飾 | 十のGla残留物                                |

### 使用法とパッケージング

|    |      |
|----|------|
| 包装 | 1 mg |
|----|------|

保管・発送情報

保存方法 -20°C

安定性 12ヶ月